

姫路市立琴丘高等学校

Himeji Municipal Kotogaoka High School

国際文化科

Department of Global Culture

地元で活かす
国際文化での学び

Self

Local

Global





Using English to Broaden Perspectives

by (Class 3-7), Noeru Tokihisa (Hirohata Junior High School graduate)



Before I decided to take the entrance exam for the Global Cultural Course at Kotogaoka, I thought I had a good understanding of cross cultural awareness, especially regarding "diversity". I thought that because I had a lot of interaction with people from different backgrounds, these experiences would help me have a good understanding of diversity. But I was wrong. I didn't know what diversity really meant.

After enrolling in the Global Cultural Course, I was able to get in touch with so many different cultures and learn about what is happening around the world today. Every time I was in class, I was surprised by my classmates' opinions on various topics. This led me realize that every single person has a unique way of thinking.

Even though we all couldn't go abroad due to COVID-19, I could still learn a lot through my conversations with classmates and teachers. In short, learning about other cultures doesn't necessarily mean you need to go abroad.

Even in a small, familiar community, there are a lot of chances to hear brand new perspectives. Moreover, learning English makes this possible and easier. That's why I want to continue learning and improving my English.

特別講義

野村和宏教授による講義

甲南大学全学共通教育センター教授・神戸市外国語大学名誉教授である野村先生に「英語スピーチの書き方」について講義をしていただきました。講義を受けた2年生国際文化科の生徒は10月の西播スピーチコンテストに全員でトライする予定です。



吉田達弘教授による講義

兵庫教育大学学校教育研究科教授である吉田先生に、小高連携研修授業をしていただきました。楽しいゲームや歌の中に、英語を学ぶ的確な目的があり、生徒たちは楽しみつつも、しっかりと小学生への英語の教授法を学びました。



国際文化科の行事

異校種連携授業

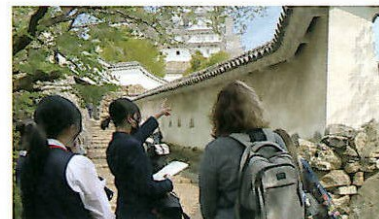
近隣の小学校や特別支援学校に出向き、グループに分かれて、ゲームや歌を活用して、先生役として英語の授業をします。



姫路城を英語で案内

「文化研究」授業の一環として

半年以上かけて姫路城の英語のガイドの仕方を学びます。最後は実際に姫路城に行ってネイティブの方にガイドします。



国際交流

オンライン交流

「コミュニケーション」授業の一環として臺北市立萬芳高級中學とのオンライン交流。



海外姉妹校交流事業

米国アリゾナ州フェニックス市の姉妹校セントラルハイスクールとの交流。



現行カリキュラム

※下記のカリキュラム表は、教育的な事情により、変更される場合があります。

国際文化科 第1学年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
現代の 国語	言語 文化	公共	歴史 総合	数学Ⅰ	数学A	生物 基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	総合英語Ⅰ	ディベート ディス カッション Ⅰ	家庭 基礎	総合的 な検定	L H R																	

国際文化科 第2学年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
論理 国語	古典 探究	日本史探究 世界史探究	地理 総合	科学と 人間 生活	体育	保健	総合英語Ⅱ	エッセイ ライティングⅠ	ディベート ディス カッション Ⅱ	文化 研究	韓国語 スペイン語	情報Ⅰ	総合的 な検定	L H R																	

国際文化科 第3学年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
論理 国語	古典 探究	現代文 探究	日本史探究 世界史探究	日本史 研究 世界史 研究	体育	総合英語Ⅲ	エッセイ ライティングⅡ	メディア イン グリッシュ	ディベート ディス カッション Ⅲ	韓国語 スペイン語	自由 選択Ⅰ	自由 選択Ⅱ	総合的 な検定	L H R																



英語の専門科目

3年間の英語の授業時間数は週あたり 30～32時間

(普通科は文系18～22時間、理系17時間)

- 1年生/必修7時間
- 2年生/必修12時間
- 3年生/必修11時間、選択2時間

総合英語

1年生 週5時間
2・3年生 週4時間

聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くことの五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を養います。

ディベートディスカッション

3年間 週2時間

アメリカ人、オーストラリア人の先生による実践的コミュニケーションの授業です。また、日常的、社会的な話題のディベートを通して、自分の意見を論理的に伝える力を養います。(クラス2分割の少人数授業)

第2外国語

(選択科目、2・3年生・週2時間)

韓国語



韓国出身の先生の指導で、ハングル文字の読み方から始めて韓国語の基本を学習します。

エッセイライティング

2年生 週4時間
3年生 週3時間

複数の段落からなるエッセイを書くことを中心とした授業です。また発信能力及び論理的な思考や表現力の育成をすることが目標です。

文化研究

2年生 週2時間

英語を通して日本文化を再認識し、理解を深め、英語で発信する力を育てます。(クラス2分割の少人数授業)

スペイン語



スペイン出身の先生から、本場のスペイン語の基本を日常表現を中心に学びます。

メディア・イングリッシュ

3年生 週2時間

英字新聞、英語ニュース、洋画の英語など様々なメディアの英語に接し、国際事業や国際問題を理解し、視野を広げます。(クラス2分割の少人数授業)

■ 実用英語検定合格者数

検 定 級	R3	R2	R1
準 1 級	1	3	3
2 級	25	23	21

■ 卒業生の進路決定先

卒業年度	R3	R2	R1
国公立大学	1	1	2
私立大学	32	29	25
短期大学	1	2	1
専門学校	5	6	10
就職・その他	0	2	2

■ 17回生進路先 (AO・指定校推薦・公募制推薦・一般入試)

3月31日現在・実人数

〈大 学〉	神戸市外国語大学(1)	関西大学(1)	甲南大学(6)	龍谷大学(2)
	神戸女子大学(3)	創価大学(1)	神戸常盤大学(1)	関西外国語大学(5)
	大和大学(1)	桃山学院大学(1)	甲南女子大学(1)	神戸学院大学(5)
	神戸松陰女子大学(1)	ノートルダム清心女子大学(1)		姫路大学(1)
	京都看護大学(1)	流通科学大学(1)		
〈短期大学〉	大手前短期大学(1)			
〈専門学校〉	(5)			



卒業生からの メッセージ

ケント 華矢 リリー

広畑中学出身

同志社大学
文学部 英文学科 3回生



私は国際文化科を卒業して、自信をもって誰よりも楽しい3年間を送れたと言えます。

国際文化科に対するイメージとして、「英語の授業が多い」「他国語も学べる」「世界文化に触れられる」などを思い浮かべるでしょう。でもそれだけではありません。毎日の教科の授業とともに、授業の中で日本文化について調べ、プレゼンをします。テーマを決めて調べ学習をし、それをわかりやすく工夫して相手に伝える。これはとても労力が必要ですが、自分でも知識を得られ、さらに他の人の発表を聞いて学ぶことも多いです。留学生に英語での姫路城の案内や、小学生に英語を教えるなどの機会があります。3年間、同じメンバーとともに学ぶので、他のクラスにはない特別感があり、団結力も強いので琴丘フェスティバルなどの学校行事はとても盛り上がりがあります。

私は大学でも英語を学びたいと思い、興味があった英語教育学を専攻しています。特に、日本の教育についてだけでなく国内外のバイリンガル教育に焦点を当てて学んでいます。外国語を教えるということがどれほど大変なものを痛感しています。琴丘の先生方が丁寧に説明し、熱心に教えてくださったことが今になってわかります。

また、オールイングリッシュの授業やプレゼンには積極的に参加しています。他にも、高校で学んだ第二外国語のスペイン語を今でも続けて学習しています。

国際文化科は、本当に高校生活を充実させてくれます。進路に迷ったり、思い通りの結果が得られなくて悩んだりしたことも今では良い思い出です。是非、国際文化科で好きなこと・興味のあることを見つけてください。

藤川 夢雲

大津中学出身

甲南大学
マネジメント創造学部 2回生



私が大学生になって頑張っていることは、「勉強」です。高校時代に引き続き、特に英語に力を入れています。私の通っている学部では実践的な英語の授業が数多くあり、英語の基礎知識はもちろん、外国人教師の授業のみなので、スピーキング、リスニング能力も自然と身につきます。特に英語の力が身につけると実感したのは、授業で伝えたいことを自分の言葉で伝えられた時や、毎学期受けるTOEICで成績が上がっていくときです。

私の通っている学部では、英語だけでなく経済、経営学も学ぶことができます。経済経営学の授業は、私にとってとても面白い授業で、世の中のお金の仕組み、商品を販売するための様々な戦略など、自分の学びたかったものを学んでいます。

大学生活の四年間を通して、私は、「ただ英語を話せる人」になるのではなく、経済経営学の知識も身につけ、社会に出た際に、自分の意見を経済、経営学的な思考を持ちながら国際社会に対応していける人材になりたいと考えています。

澤田 陽世理

灘中学出身

兵庫県立大学
環境人間学部 2回生



私は兵庫県立大学環境人間学部に所属し、社会デザイン系で地域コミュニティやコミュニケーションについて学んでいます。私の学部では国際関係の分野に進むことも選択できるなか、なぜ地域社会や人々との対話を重視する分野に進んだのか。この選択には、琴丘高校国際文化科での経験が大きな影響を与えています。例えば、小学校や特別支援学校の子供達と一緒に英語を学んだこと、姫路国際交流フェスティバルでのボランティア活動、姫路港での外国人観光客の案内です。これらの経験はすべて「地域」や「コミュニケーション」と深く関わっています。そのため、大学ではより地域密着型に焦点を当て、このグローバル社会において地域の伝統や繋がりを維持する方法について考えています。

また、私は副専攻のグローバルリーダー教育プログラムを選択し、英語でのプレゼンテーションや日本でグローバル社会を学ぶフィールドワークを積極的に行っています。自ら学ぶ姿勢が求められるため大変なことも多いですが、高校で多様な世界や文化に触れた経験が今の自分を支えています。

現在の目標は通訳ガイドの資格を取得し、国際社会と地域社会をつなげ、グローバルに活躍できる人材になることです。そして広い視野を持ち、今までの学びに加えてさらに新しい自分の興味・関心を発見できるよう頑張りたいと思います。

平山 優奈

新宮中学出身

神戸市外国語大学
外国語学部 英米学科 4回生



私は現在、神戸市外国語大学 外国語学部 英米学科に在籍しています。大学では英語を専攻しており、英語という言語の歴史や英文法の構造を分析したり、英語圏の小説や詩を読み解いたりなど、英語に関する様々な学問を学んでいます。さらに、大学では「日本大学英語模擬国連大会(Japan University Model United Nations)」(参加者が国際連合加盟国の大使になりきって国際問題を英語で議論し、実際の国際連合の手法を模して決議を目指す、という大会です)に参加したり、語学留学に行ったり、発展途上国と日本の方々の文通をサポートする翻訳ボランティアをしたりなど、国際的な活動にも意欲的に取り組んでいます。このように、大学ではまさに異文化を学んでいるのですか、私が異文化を学べる神戸市外国語大学に入りたいと思ったのは、琴丘高校で得た様々な経験が背景にあります。琴丘高校の国際文化科に在学中、海外からの留学生やASEの先生に日本の歴史や文化を紹介したり、また、授業で海外の文化に触れる機会が多くあったことなどから、異文化交流の素晴らしさを学びました。そして、さらに深く異文化について学んでみたいと思うようになりました。また、大学の授業で扱う文献はほとんどが英語で書かれているのですが、それらの読解に高校時代に鍛えたリーディングのスキルが大いに活かされています。大学では高校で身につけた英語力にさらに磨きをかけるべく、国際コミュニケーションコースに所属し将来英語をツールとして国際社会で活躍できるよう日々英語学習に励んでいます。そして現在は「日本と海外の架け橋になり、国際交流を促進したい」という思いを持って就職活動に励んでいます。

